

東郷元帥記念公園 工事ニュース 2021.08

1 東郷元帥記念公園の今後の工事予定について

- 東郷元帥記念公園の下段広場工事は、土壌対策検討のため一時休止していましたが令和2年度から再開し、令和3年5月より土壌対策と公園改修工事を並行して行い、令和4年3月末に完了し、開放を予定しています。
- 上段・中段広場工事は、令和4(2022)年4月から基準値超過土壌の除去・埋戻等の土壌対策を行い、次に、追加の土壌対策として現況樹木周りの封じ込め対策と公園改修工事を並行して進め、工事完了は令和6年3月末を予定しています。

図1 工事区分図



平成29(2017)年10月の工事着工以降の工事状況及び予定を示します。

表1 工事工程表

項目	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
下段広場 工事	公園改修工事 開始	開始	工事休止	アスベスト除去 ・土壌対策工事	土壌対策・ 公園改修工事	下段広場開放	公園完成予定
上段・中段 広場工事		土壌調査による閉鎖 による閉鎖	一時開放 工事	上段・中段広場一時開放	令和4年 3月末 完了予定	土壌対策工事 撤去等	令和6年 3月末 完了予定

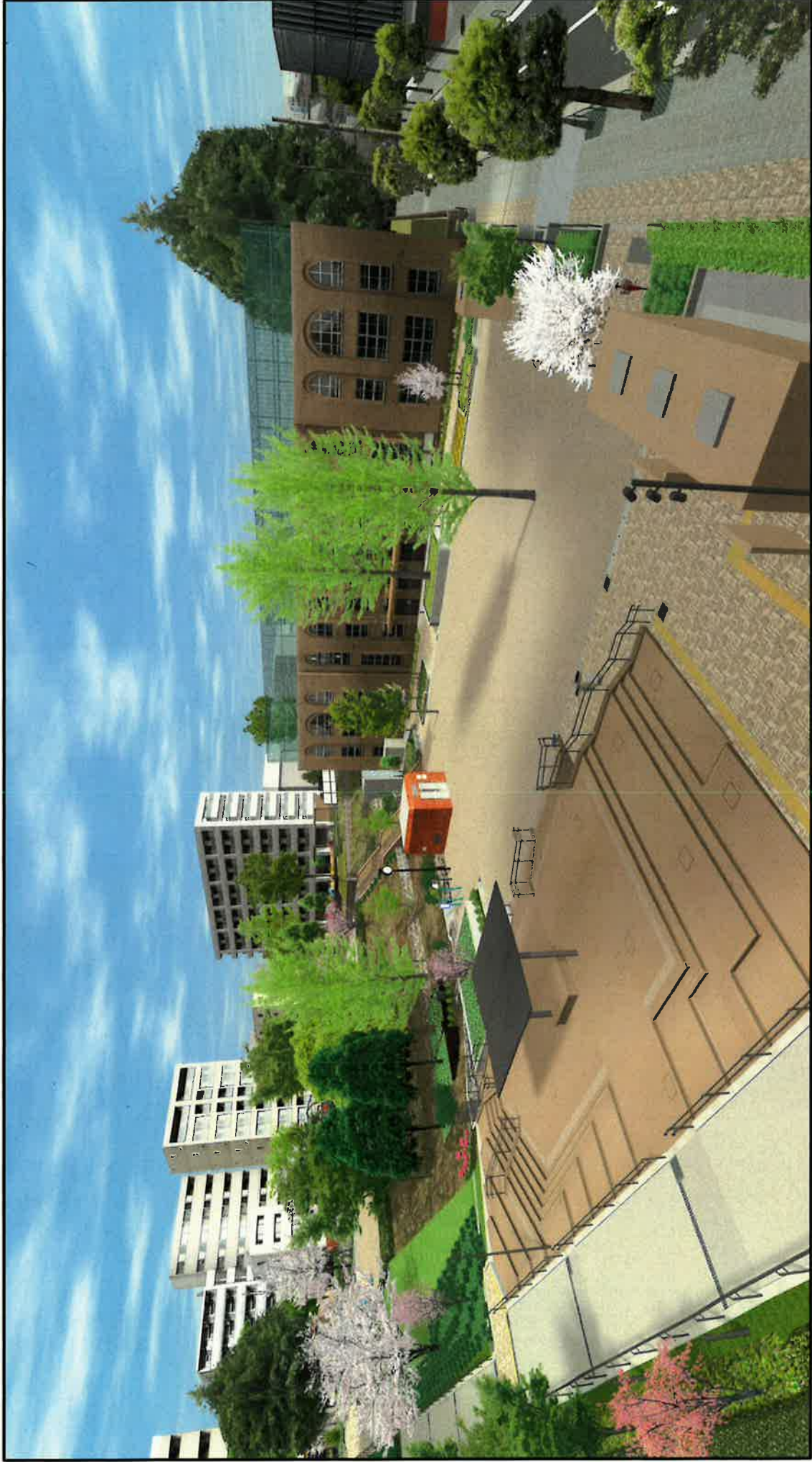
2 東郷元帥記念公園の土壌対策工事について

Q1. これまでの経緯は？

- 東郷元帥記念公園は、震災復興小公園（当時：上六公園）として区立九段小学校と一体的に整備された公園であり、区立九段小学校の改築（平成30（2018）年9月開校）に伴い公園内のグールが撤去されるため公園の全面的な改修工事を行うことと致しました。
- 東郷元帥記念公園では、工事残土搬出のための土壌調査にて「鉛及びその化合物」について「土壌汚染対策法」による基準値超過が認められたため平成30年7月に工事を休止し、対策法に基づき土壌調査を行いました。
- 令和2（2020）年4月まで21か月間、工事を休止していましたが、再開後は、下段広場の旧グール沿い外周堺にて想定外のアスベスト除去と土壌対策工事を行いました。

Q2. 時間がかかっているのはなぜ？

- 工事により基準値を超えた鉛が検出されたことから、10m区画毎に「鉛及びその化合物」の基準値超過土壌*1の除去・搬出と検査済良質土による埋戻を専門業者が行いました。
*1：基準値超過には、溶出量（土壌中に溶け込んでいる量）と含有量（土壌中の固体量）があり、含有量超過土壌は人が接触しないように封じ込めが必要です。
- 含有量超過区域内に現況樹木がある場合は、専門業者が根回りを根鉢状に残して周囲の土壌を除去・搬出後、良質土による埋戻を行います。次に、造園業者が根鉢周りの超過土を封じ込めるため植樹柵等を立上げ、地面から0.5mの高上げ盛土（碎石等）を行います。
- 公園施設工事は、良質土埋戻し範囲の概ね1mまでの深さで行います。このように10m区画毎に、基準値超過や樹木のあり・なしにより、異なる対応に手間を要す工事を進めています。
- 上段・中段広場では土壌対策が必要な区画数及び含有量超過区域内の樹木本数が下段広場よりも多く、地形も複雑なことから下段広場以上に手間を要する工事となります。



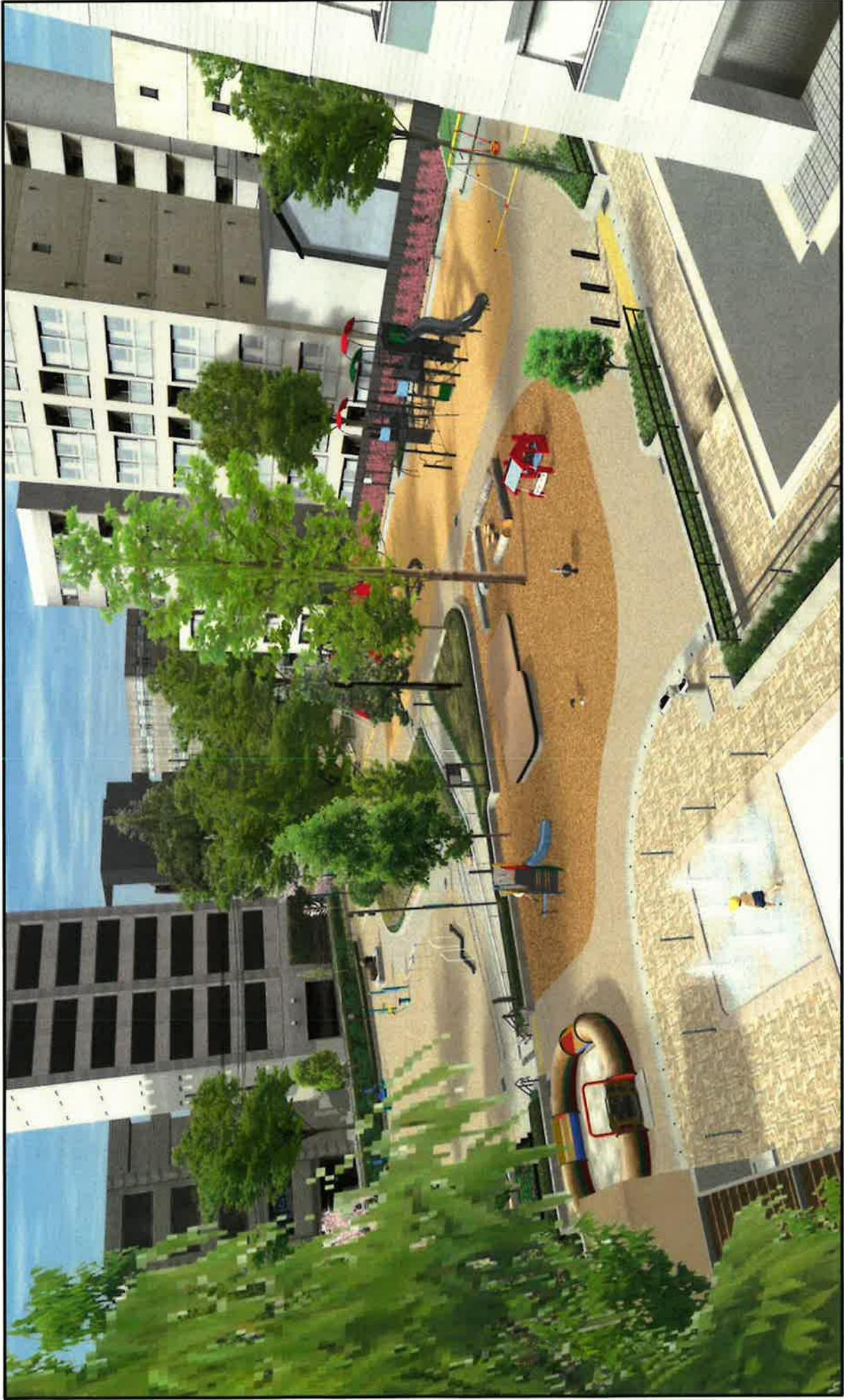
※計画内容は今後の検討で変更となる可能性があります。

下段広場完成イメージ図（番町学園通り口より望む）



※計画内容は今後の検討で変更となる可能性があります。

中段広場完成イメージ図（北側から望む）



※計画内容は今後の検討で変更となる可能性があります。

上段広場完成イメージ図（東側から望む）